

## シンポジウム：上気道細菌感染症のガイドライン

小児科領域における上気道細菌感染症（抄録）

本廣 孝

社会福祉法人 ゆうかり学園

小児の上気道細菌感染症には咽頭炎、扁桃炎、中耳炎、副鼻腔炎などがあるが、小児科領域では、これらの疾患に対する重症度分類の基準はない。しかし、小児科領域抗菌薬臨床試験における判定基準では咽頭炎や扁桃炎は上気道炎として、大部分の症例が軽症に該当するとされ、高熱が長期（4日以上）続く場合、CRP高値（10 mg/dl以上）、白血球数増多（15,000/mm<sup>3</sup>以上）のうち2つ以上があり、かつ全身状態が不良と考えられる症例は中等症で、中耳炎でも同じであるが、副鼻腔炎についての記載はない。

これらの疾患に対する抗菌化学療法は新しい経口セフェム系抗菌薬が多用されているが、起炎菌によってはペニシリン系抗菌薬などが第一選択薬になりうる。

今回は扁桃炎、中耳炎、副鼻腔炎について耳鼻咽喉科各先生が述べられたあとに、小児科医としての意見をと考えている。